

# 「放送批評の50年」目次

はじめ 音好宏 —— 12

## 第1章 1960～1970年代 1967～1979 胎動の時代 —— 15

『放送批評』1967年12月号

テレビ媒体の理論と実態 理想像による現実の超克 志賀信夫 —— 16

『放送批評』1968年1月号

弛緩のメディア 放送批評——わがニコロのキシミ 稲葉三千男 —— 28

『放送批評』1968年6月号

Quo Vadis, Radio? —— 番組と営業サイドからみた民放ラジオ —— 島地純 —— 40

『放送批評』1968年7月号

座談会 ドキュメンタリitol.ボルタージュ 牛山純一・吉沢比呂志 〈司会〉和田矩衛 —— 48

『放送批評』1968年12月号

七〇年安保にからむ放送 六九年の放送界を展望 志賀信夫 —— 59

『放送批評』1970年1月号

「テレビとは何か」という問いの重味 今野勉論に託して 青木貞伸 —— 82

『放送批評』1970年2月号

座談会 ヒューマン・タッチをCMにもりこむには 萩昌弘・志賀信夫・竹村健一 〈司会〉堀江史朗 —— 48

『放送批評』1970年3月号

牛山純一にきく「ベトナム海兵大隊戦記」 青木貞伸 —— 102

『放送批評』1971年2月号

十一歳の放送番組審議会 烏山拡 —— 108

『放送批評』1971年6月号

陽焼けした生活人からの発言 日の丸から四年 萩元晴彦 —— 119

『放送批評』1971年6月号

## 〈ラジオ〉からの証言

ラジオ「作り手」と「送り手」の現場から 吉村育夫 ————— 126

『放送批評』1972年1月号

## 国家と放送

今後の放送行政の問題点 清水英夫 ————— 132

『放送批評』1972年3月号

## 「テレビ」は何を発注するか

佐怒賀三夫 ————— 141

『放送批評』1972年4月号

## ジャーナリズムとしてのテレビ

番組分類の考え方をこえて 山本明 ————— 150

『放送批評』1973年2月号

## 報道とパブリシティの間

「広報部」と「取材者」の“情報バック”化されるニュースをめぐる対峙 松田浩 ————— 158

『放送批評』1973年11月号

## ドキュメンタリー「キャロル」

なぜ客観的でなければならぬか 龍村仁 ————— 166

『放送批評』1973年12月号

## 不可視なメロ・ポリティックス

ジャーナリズム 私状況と諸映像の同衾 松尾羊一 ————— 173

『放送批評』1975年5月号

## 現代における中継

技術の進歩と「中継」の変貌 藤竹暁 ————— 182

『放送批評』1975年6月号

## 放送はエスタブリッシュメント・メディアである

「署名性と匿名性」から遠く離れて 後藤和彦 ————— 191

『放送批評』1975年6月号

## 匿名性と記名性について

三菱重工業ビル爆破の意味するもの 別役実 ————— 200

『放送批評』1976年1・2月号

## 対談 放送批評の自立性について

「個」と「普遍性」の振幅において いかにテレビ批評を成立させるか 山本明・太田欣三 ————— 205

『放送批評』1976年12月号

## テレビはジャーナリズムたりうるか

矢崎泰久・瓜生忠夫 ————— 216

## 活字と映像の間 「落日燃ゆ」「妻たちの二・二六事件」 澤地久枝―― 229

『放送批評』1978年9・10月号

座談会 “獅子の”と“を中心”に 三時間ドラマはかく創られた その誕生と栄光そして未来  
大山勝美・倉木正晴・今野勉・豊田年郎・引田惣弥 《司会》志賀信夫

『放送批評』1978年11月号

座談会 オレ！ 音像人間タモリ タモリ ほか 《司会・構成》亀渕昭信―― 251

『放送批評』1978年12月号

ビデオ・「ミニ一ケーシヨンの思想」 “開かれたテレビ”を見透す試み 野崎茂―― 259

『放送批評』1979年2月号

低俗とは 差別される娯楽番組 澤田隆治―― 268

『放送批評』1979年9・10月号

美しくて哀しい世界を描きたい 木村栄文―― 275

『放送批評』1979年11月号

〈特集・現代、テレビドラマツルギー〉

事実とフィクション 制作をめぐって 大山勝美VS藤久ミネ―― 279

演出者たり得るために 演出をめぐって 和田勉VS佐藤忠男―― 286

近代劇のドラマツルギー 脚本をめぐって 山田太一VS江藤文夫―― 294

地方と自然と人間 地方制作をめぐって 伊藤松朗VS守分寿男―― 302

インタビュー 山藤米子 《ききて》松尾羊一―― 310

〔2013年の視点から〕複製技術が生んだ「テレビの同時性」とは何か 藤久ミネ―― 85

〔2013年の視点から〕政治状況をビビッドに受け止めた『放送批評』 上滝徹也―― 271

# 第2章 1980年代 1980～1989

## 論争の時代

313

『放送批評』1980年8月号

要約文化を象徴する「プロ野球ニュース」 混在する求道精神と世相探知の精神 藤竹 晓

314

『放送批評』

1980年11月号

「ミニック文化としての「マンザイ」 松尾羊一 ————— 322

『放送批評』

1981年9月号

座談会 「話者たちのいるラジオ・いないラジオ 三國一朗・亀渕昭信 〈司会〉 小山雄二 ————— 328

『放送批評』

1982年5月号

エッセイ 私のドキュメンタリー作法 意味の世界としてのドキュメンタリー 牛山純一 ————— 338

『放送批評』

1982年8月号

対談 テレビにぬぐもりを感じる瞬間 山田太一 vs 大林宣彦 ————— 345

『放送批評』

1982年12月号

〈特集・ドラマ——テレビ四五年代〉

〈ドラマ作家考〉 新鉱脈との出逢いは楽しい 早坂 晓という作家 深町幸男 ————— 358

〈ドラマ作家考〉 個人様式・集合体の様式 そして時代様式 山田太一という作家 鴨下信一 ————— 366

〈ドラマ作家考〉 「——」の重さ 倉本聰という作家 内館牧子 ————— 366

『放送批評』1983年5月号

番組解剖 久米宏のTVスクランブル 新しい時代の情報番組が生まれた 三木鮎郎 ————— 370

『放送批評』1983年7月号

座談会 批評のないところに進歩はない メディア相互の活性化のために 佐藤精・古谷糸子・松田浩 〈司会〉 志賀信夫 ————— 376

『放送批評』

1983年9月号

スーパーウーマン「おしん」 麻生千晶 ————— 387

387

『放送批評』1984年5月号

パネルディスカッショントレビ・メディアの弱点を衝く 「アフタヌーンショー」から見たテレビ――

石原正礼・加東康一・梨元勝・ばば こういち・平岡正明 ほか 《司会》島田親一

394

『放送批評』1985年8月号

連続シンポジウムをおえて 夢国TV論 平岡正明―― 416

『放送批評』1985年12月号

平岡正明氏「夢国TV論」に反論する 女・子どもでなぜ悪い 女性型メディアの可能性について 大山勝美―― 428

『放送批評』1988年11月号

第一線放送人をハダ力にする出前座談会16 大衆の正しい力学が時代を創る―― 436

堀威夫 《聞き手》大野三郎・加東康一・ばば こういち

『放送批評』1989年5月号

鼎談 天皇報道を振り返って テレビは何を伝えたのか 稲葉三千男・大藏雄之助・志賀信夫―― 451

『放送批評』1989年8月号

ビッグ・インタビュー NHKの積極的未来論 既存メディアにしがみつくな 島桂次 《聞き手》嶋田親一―― 461

【2013年の視点から】開かれたフォーラムとしてのスリリングな『放送批評』 藤田真文―― 317

【2013年の視点から】80年代後半に直面した、成熟後の分かれ道 小田桐誠―― 381

【2013年の視点から】「昭和」が死んだ1980年代は、テレビ放送の絶頂期か 坂本衛―― 431

## 第3章 1990年代 1990～1999 告発の時代―― 471

『放送批評』1991年1月号

「二世紀のパーソナル・メディアを実感しよう! エレクトロニクス未来形 高田佐紀子―― 472

『放送批評』1991年3月号

国連平和協力法案と放送 テレビにたりない憲法論争 奥平康弘―― 478

『放送批評』1991年8月号 衛星放送時代へのパワー・ハーツ

地図一カナル局のサバイバル試験 河内山重高 485

『放送批評』1992年1月号 イールパートナーの光と影 放送局とプロダクション 村木良彦 492

『放送批評』1993年1月号 国境を越える電波 放送の“国際化”試験 篠原俊行 500

『放送批評』1993年2月号 郵政省失政録 上・下 the Misgovernment about the Ministry of Posts and Telecommunications 坂本衛

『放送批評』1993年6月号 “やるやく考”

『放送批評』1994年3月号 マスクの扱いと責任のくり方 原寿雄 526

『放送批評』1994年3月号 バブルになぶられた放送局 KBS京都 根抵当の怪とダイナーの思惑 竹山昭子 531  
『放送批評』1994年12月号 座談会 窶地の“言論・表現の自由” 権田萬治・田島泰彦・ばば ひづる 《司会》青木貞伸 536

『放送批評』1995年4月号 地震列島、メディアの課題 1. 17阪神大震災 青木貞伸・上野修・松尾羊一 《司会》伊豫田康弘 542

『放送批評』1995年8月号 在阪局からの反讐 阪神大震災報道もへむとの問題点 辻一郎 561

『放送批評』1995年9月号 戦後50年と放送 テレビと新聞の「競争」と「共生」 新井直之 566

『放送批評』1996年3月号 少女暴行事件報道ウォッキング 沖縄県民の冷靜な怒り 比嘉要 574

『放送批評』1996年3月号

基地取材ノートから 沖縄も本土も元凶は日米安保 加藤久晴 ————— 581

『放送批評』1996年8月号

TBS坂本弁護士テープ問題 “新生TBS”への残された宿題 伊豫田 康弘 ————— 588

『放送批評』1996年12月号

膨大なデータが業界を惑わせる テレビは文化事業である 田村穰生 ————— 595

『放送批評』1997年2月号

インタビュー 五味一男 広告主より視聴者が大事 個人視聴率なんて10年はやい 〈インタビュー・構成〉坂本衛 ————— 604

『GALAC』1997年6月号

放送にとつて批評とは何か 自己を極限まで解体せよ!! 吉本隆明 〈インタビュー・構成〉坂本衛 ————— 610

『GALAC』1997年6月号

なぜ君は“放送批評”するのか? 「新放送批評派」連帶のためのアピール 藤田真文 ————— 617

『GALAC』1998年3月号

文学としてのドキュメンタリー テレビマジュニア・ディレクター 是枝裕和 こうたきてつや ————— 624

『GALAC』1998年6月号

消すな! 時代劇職人の技 嶋田親一 ————— 632

『GALAC』1998年6月号

座談会 メディアに“ナイフ殺人”的責任はない 飯田譲治・宮台真司・上滝徹也 〈司会〉坂本衛 ————— 638

『GALAC』1998年6月号

座談会 ドキュメンタリーは地方から再生する 中村 登紀夫・永田俊和・鈴木典之・伊豫田 康弘 ————— 649

『GALAC』1999年2月号

北朝鮮はテレビのタブーか? 石高健次 ————— 658

『GALAC』1999年6月号

続・政治とテレビ 「参考人招致」なる不愉快 清水英夫 ————— 664

『GALAC』1999年11月号

theidショーカーの構造を徹底検証! 増殖する“サッチャー”というイメージ 今村庸一 ————— 672

## 第4章

# 2000～2010年代

2000～2012 再構築の時代

681

- 〔2013年の視点から〕 ドラマ、バラエティが花開いた90年代の放送 藤田真文 ━━━━  
〔2013年の視点から〕 新しい時代にふさわしい放送批評をめざして 丹羽美之 ━━━━ 613  
〔2013年の視点から〕 放送事業を取り巻く環境の急速な変化 音好宏 ━━━━ 667  
629

『GALAC』2000年10月号  
「失われた90年代」を広告はこう描いた 兼高聖雄 ━━━━ 682

『GALAC』2001年2月号  
バラエティ番組を席卷する 「素人」パワー 原由美子 ━━━━ 688

『GALAC』2001年9月号  
連ドラ『HERO』現象のナゾ そしてドラマはバラエティ化した こうたきてつや ━━━━ 694

『GALAC』2002年7月号  
テレビニアーメーション文化論 「アトム」たちが作つた新しい世界 諸橋泰樹 ━━━━ 700

『GALAC』2002年8月号  
特別企画 「密室」政治より「ワイドショー」政治のほうがまし 藤竹暁 〈構成〉坂本衛 ━━━━ 700

『GALAC』2003年9月号  
「ミニユーモーシヨンはどう変容したのか!」 〈構成〉兼高聖雄 ━━━━ 722

『GALAC』2003年10月号  
地上デジタル現行計画「すでに破綻」の決定的理由10 坂本衛 ━━━━ 731

『GALAC』2003年12月号  
久米宏のいた時代 "山の手民主主義"が残したもの 小中陽太郎 ━━━━ 751

『GALAC』2004年3月号  
視聴率の歴史と「これから」 岩本太郎 ━━━━ 761

『GALAC』2004年5月号  
韓国ドラマの魅力はここだ！

日本にも懐かしい恋愛シーンのときめき 中町綾子 ————— 768

『GALAC』2005年6月号  
フジテレビVS.ライブドア

異業種が狙う放送ビジネス？ 「ネットと放送の融合」という幻想 坂本衛 ————— 775

『GALAC』2005年10月号  
2005夏 テレビは何を伝えたか 「記憶」と「記録」の間に 藤田真文 ————— 785

『GALAC』2006年4月号

政府・自民党が「経営改革」を叫ぶ四つの背景 小田桐誠 ————— 794

『GALAC』2006年12月号

報道番組の今 摺れる！ バラエティと報道の境界 山田健太 ————— 803

『GALAC』2007年2月号

制作会社40年間の死闘 岩本太郎 ————— 811

『GALAC』2007年6月号

「やらせ」「捏造」はなぜ起くるのか？ 「あるある大事典II」が突きつけたもの 碓井広義 ————— 829

『GALAC』2007年7月号

崇高な理念と利害の狭間 砂川浩慶 ————— 835

『GALAC』2008年1月号

特別対談 リメイクするより、いまを擊て！ 鶴橋康夫 VS 金子修介 ————— 835

『GALAC』2008年9月号

テレビが自らを検証する時 NHKインサイダー事件の「検証番組」について 鈴木嘉一 ————— 844

『GALAC』2009年1月号

「日韓中テレビ制作者フォーラム」などに見るアジアドラマの潮流 変貌する東アジアのTVドラマ 中町綾子 ————— 852

『GALAC』2009年4月号

ポスト You Tube 時代の放送批評 津田大介 ————— 859

『GALAC』2009年6月号  
テレビ経済報道の問題点 報道現場を縛る「三つの制約」 山田厚史

865

『GALAC』2009年9月号

—

膨張する放送外事業 川本裕司

871

『GALAC』2009年10月号

—

第三者機関に頼らない倫理とは 大石泰彦

883

『GALAC』2010年2月号

—

視聴者は何を期待しているか 時代の無意識が見えるドラマ こうたきてつや

890

『GALAC』2010年6月号

—

座談会 作り手が語る ドキュメンタリーの魅力と可能性

896

右田千代・谷原和憲・阿武野勝彦 〈司会〉丹羽美之

『GALAC』2011年7月号  
対談 東日本大震災の被災地を歩いて 吉岡忍・石井彰

905

『GALAC』2011年11月号

—

原発事故初期報道の検証 実態とかけ離れていたテレビ報道 東京大学大学院学際情報学府震災報道調査班

915

『GALAC』2012年5月号

—

ラジオの役割は見直されたのか 高瀬毅

922

『GALAC』2012年9月号

—

多チャンネル時代に突入したBSの課題と展望 BSバラドックスを乗り越えろ 川喜田尚

931

【2013年の視点から】激変する社会のなかで問われる、テレビの真価 中町綾子

741

【2013年の視点から】メディア発展のための「放送批評」運動へ 碓井広義

779

年表・放送史50年 藤田真文・小林英美

941

編集を終えて 藤田真文

954